

海外輸出にも焦点を当てた茶業振興

渥美 嘉樹 (みどり21)



農水省では、輸出茶の生産目標を平成30年の0・5万トンに対し令和12年には2・5万トンの約5倍増としている。菊川でも、お茶の海外輸出に本腰を入れて取り組んでいく必要がある。

② 2月定例会で茶業課題の洗い出しを行うという答弁があったが、その結果を伺う。

① 茶業関係者との意見交換会を開催した。課題は、従事者や組織の高齢化、後継者不足が挙げられた。今後の方向性として「思い切った変える時代に来ている」「経営が成り立てば後継者が生まれてくる」など率直な意見が出された。

③ お茶輸出の課題となる「販路の確保」と「農業基準のクリア」にどのように取り組むか。

① 「販路の確保」は日本貿易振興機構などと連携し、海外バイヤーと接する機会を増やしていきたい。「農業基準クリア」は支援制度を周知させ、国や県、日本貿易振興機構や静岡茶輸出拡大協議会、市内

外の先進事業者などから情報収集し、市内関係者に情報提供する。

③ 国内振興策として、小中学校で急須のお茶を飲む機会を増やして欲しい。現状は何回か。

① 小学校は年間1〜2回程度。中学校では機会がない。学校での学びや体験を活かし、家庭でお茶を飲んでもらう機会が持てたらと考えている。

他に「小中学校のタブレット使用」「待機児童問題」について質問しました。



輸出量・輸出額ともに激増！！

菊川市の茶業振興に向けたPRについて

須藤 有紀 (みどり21)



当市においても茶の需要喚起・消費拡大は大きな課題。市として菊川市のおいしいお茶をPRし、今後の茶業振興に向けた対策をすべく、2月議会に引き続き質問する。

③ 菊川茶についてインフルエンサーの活用やSNSの発信、マスメディアや雑誌等での広告など、市としてもう一段のPRを。

① インフルエンサーの活用による菊川茶のPRは、2月の定例会でも議員より提案を受け、過去の経験から非常に効果があると述べた。今年度に入ってから、チャンネル登録者数20万人以上のYouTuberで、西武や巨人で活躍され、楽天の監督も務められた元プロ野球選手のデーブ大久保さんを紹介いただいた。今回は横浜や中日で活躍された谷繁氏との野球談議中に菊川茶を飲んでいただきPRすることができた。

また、昨年度、全国放送のお昼の人気番組で、菊川茶のPRと視聴者プレゼント企画を行い、反響があった。さらにこの事業を実施したことで有名雑誌からの提案もあり、現在、茶業協会が研究している。

③ 台湾は第2位の茶輸出相手国であり、市内でも茶業で交流した前例がある。コロナ感染症終息後にグリーンツーリズム等を通じてPRするためにも、台湾の都市との姉妹都市提携についてご検討頂きたい。

① 姉妹都市提携をはじめとした都市間の交流は、目的や効果を明確にし、双方の信頼関係や市民理解の中で進めることが必要。コロナ感染症終息後、茶業交流が再開をされ、様々な交流が進み、双方の信頼関係、市民の雰囲気醸成も含めた先に、提携の機運が高まっていくと考えている。

他に「菊川市の空き家の利活用」について質問しました。

